

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2023 年 8月 6日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

職 名・学 年 助教

氏 名 山守 瑠奈

助成の種類	令和5年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	the 14th international polychaeta conference			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	Utilization of terrigenous leaves by tube-bearing worm Anchinothria cirrobranchiata (Onuphidae) in the deep sea.			
開催場所	南アフリカ共和国, Cape Town, Stellenbosch			
渡航期間	2023年 7月 1日 ~ 2023年 7月 8日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円		
	使用した助成金額	350,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金 額 (円)	
		航空運賃	298,278 (298,278)	
		宿泊費	51,722(77,400)	
		滞在費	0(29,600)	
学会参加費		0(75,446)		
その他	0(33180)			
以上に助成金を充当				
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)採択決定後に、所属部局にて定められた手続きに迅速にご対応頂き、非常にありがたく思いました。HPの仕様もわかりやすく、遠隔地施設からも応募しやすい助成と感じております。			

成果の概要 第 14 回国際多毛類学会 the 14th international polychaeta conference

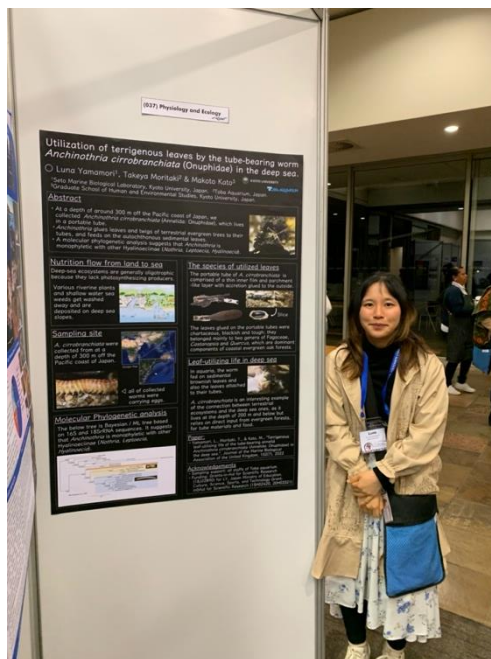
フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 助教 山守瑠奈

この度私は、貴財団の助成を受けて 2023 年 7 月 3 日から 7 日にかけて南アフリカ共和国ケープタウン Stellenbosch 大学にて開催された国際多毛類学会 the 14th international polychaeta conference に参加しました。大会には 32 カ国から約 150 名の多毛類研究者が集い、研究の成果発表と情報交換が行われました。

私は日本沿岸の深海域に生息する、陸上から流入する落ち葉を利用するクシエライソメ *Anchinotiria cirrobranchiata* (環形動物, ナナテイスソメ科) の生態と系統位置を紹介しました。本種は深海に生息しながら陸上の森林生態系に依存した生活を営むという、日本の急峻な山岳環境と多量の河川流入に支えられた生態を持ちます。この特異な生態に関する情報は海外の複数の研究者の関心を集めて議論を深めるほか、炭素-窒素安定同位体や植物由来の成分の消化機構に関わる解析等、更に発展的な解析の助言を受けました。

クシエライソメが所属するナナテイスソメ科は世界に分布しますが、日本近海の種については分子情報の蓄積と種多様性の解明がなされていない状況にあります。本研究集会では、大西洋に分布する当科の分類の世界的権威であるノルウェーBergen 大学の Nataliya Budaeva 博士と実際に会い、情報交換ならびに自身が所持する太平洋のサンプルを用いた共同研究の打ち合わせをすることが出来ました。本成果は自身の研究の発展に直結するため、この先取り組む分類学的・生態学的研究をさらに展開していく強い推進力となると確信しております。

また、本学会大会では多くの興味深い発表を聴講することが出来ました。特に自身の研究に関連性の高い内容として非常に有用な知見となったものは、基調講演の George Branch 氏による論文未発表データを多分に含む、岩礁に棲管を築いて生息するカンザシゴカイ類や、砂泥底に生息し底質から直立する棲管を作るフサゴカイ類が持つ生態系エンジニア機能についての講演でした。自身は岩礁の穿孔生物による生態系エンジニア機能についての研究にも取り組んでいるため、今回聴講できた内容は、海洋底生生物による生態系エンジニア機能に関する知識を深め研究の礎をより強固にするものとなりました。



図：ポスター発表の様子。